

未来に向けて

「うみ」「さと」「やま」が一体となった箱庭のような狩浜の景観。そこには、入り組んだ海岸線や石灰岩を産出する地質といった自然条件を巧みに活かしながら先人たちが生きてきた歴史や文化が刻まれています。これらは自然や歴史の中で紡がれてきた「狩浜らしさ」であり、いまでも私たちの目に映る景観のなかに見ることができます。他の場所では決して生まれなかった独特の景観。こうした「狩浜らしさ」を、これからも大切に育てていきましょう。

うみやま つなぐ、 かりはま ぐらし帖

西予市教育委員会

カルチュラルクロノロジー
うみやまつなぐ、かりはまぐらし帖

2018年3月22日

発行 西予市教育委員会

デザイン 高知工業高等専門学校 北山めぐみ

うみさとやまがつなぐ狩浜暮らしの魅力をひもとう

里山

標高 400~500m の山地が集落を囲んでいます。

段畑

仏像構造線が狩浜地区を横断しており、段畑上部をチャートや石灰岩を主とする南部秩父帯、段畑下部を砂岩を主とする四万十帯で構成されています。段畑には崩れにくい石灰岩、チャートが主に用いられています。

さと

主に明治期以降の建物が現存しています。主屋・ヘヤ・蔵・納屋を基本的な構成としながら特定の生業に特化した付属屋が見られます。狭小敷地であるためヘヤと納屋などが複合した建物が見られることも特徴です。

うみ

宇和海は豊後水道の一部であり、暖かな海水がもたらされる豊かな海域です。狩浜の海は法花津湾に面したリアス海岸の一部で、東はかつら島、西はお伊勢山に囲まれた小さな入江です。

